

対人援助学会第8回年次大会 企画ワークショップ

【企画者】

平沢 直樹

【キーワード】

発達障がいと呼ばれる特性を持つ者、導入プログラム、視点転換

【タイトル】

「障がいと能力どちらの言い方で考えますか？」4コマ紙芝居で問いかけるワークショップ
一人間の尊厳をより重視した「授業・研修・育成セミナー等の導入プログラム」の開発検討

【要旨】(*発達障がい以外の他の障がいの場合にも置き換えて考えてみるができる。)

発達障がい*に関する研究報告では、障がい特性のマイナスの側面だけではなく、プラスの側面についても、当事者やその家族に理解を促していくことの必要性が指摘されている。では、その理解を促す担い手となる援助者育成のために用意された授業・研修プログラムは、障がい特性のプラスの側面について理解を深める上で効果的な構成となるように、十分検討されているだろうか。大学教員や心理職員、福祉施設の責任者など権威者が行う援助学・特別支援に関する授業または研修は、受講者のその後の「障がい観」に大きな影響を及ぼすことになる。もし、その授業または研修の成果が、障がい特性に対しマイナスの印象を強くもたらすものであったり、プラスの印象がさほど残らないものであったりした場合などには、その受講者から援助を受けることになる発達障がい*と呼ばれる特性を持つ者にとって、社会や集団の中で肯定的な自己の在り方を主張することが、非常に難しいものとなりうる。

そこで、本ワークショップでは、4コマ紙芝居の創作・発表・相互鑑賞という手法を用いて、より効果的な「授業・研修・育成セミナー等の導入プログラム」について検討するものとする。

【プログラム】

1. はじめに

- 本企画はどのような当事者の意見を元に発案したものなのか、企画者の研究歴など。

2. アイスブレイク

- お題:「○○○と□□□する方法を考えてください」(固定観念に捉われない発想を!)

3. レクチャー

- 障がい特性のプラスの側面(能力)に関する理解を受講者に促していくことの意義と、既存の授業・研修プログラムにおける問題について、当事者視点を踏まえて見ていく。

4. 個人活動

- 4コマ紙芝居の1コマ分の原案作り。画用紙または白紙のコピー用紙を用いて行う。

5. グループ活動

- 個々の1コマ分の原案を持ち寄り、4人一組で紙芝居の全体構成について話し合う。

6. 参加者によるプレゼンテーション (発表時間7分×2グループの予定)

- 紙芝居形式で行う。参加人数や進行状況にもよるが、2グループに発表してもらう。

7. 講評

- 参加者の活動やプレゼンテーションを振り返り、当事者視点を踏まえて講評を行う。

8. 企画者によるプレゼンテーション

- 当事者の原案を元に、紙芝居形式で行う。肯定的な障がい理解に向け視点転換を促す。